

少女マンガに描かれた男性像の変化に関する定量的分析

山本 通正

少女マンガにおける男性像の変化はいくつかの先行研究などで指摘されているが、それらを裏付けする定量的な根拠は存在していない。そこで本研究では定量的な観点から「恋愛対象としての男性像をヒロインがどのように評価しているのか」について、年代による変化を明らかにすることを目的とした。

本研究では、定量的な観点から「ヒロインの男性像の評価」を明らかにするため、男性キャラクターの発言内容に着目している。各キャラクターの発言内容を書き起こし、そこから指標となる内容について変数を設定し、単純集計を行った。それを元に数量化 II 類を通して分析を行った。

数量化 II 類の際は「ヒロインと結ばれるか否か」で群分けを行い、ウェイトを比べることで各指標がそれぞれ、どれほどその群分けに影響するかを比較した。また、補助的な分析として、同じ変数の元、基礎統計およびクラスター分析による分析を行った。

その結果、少女マンガに描かれヒロインに評価される男性像は 2000 年前後でその幅を多種多様に変化していると結論づけられる。

具体的には「男性にいくらかのパターンがみられたが評価される男性像はある程度統一であった」と言う点が 1980 年前後にはみられ 1990 年代に向けて男性像が固定化しており、やや言動が乱暴なキャラクターが評価されるように変化していき。そこから 2000 年前後において、評価される男性像の幅が広がって言った様子が見られた。また、メインヒロインとの恋愛に限定した場合はいままでのようにやや言動が乱暴なキャラクター評価される傾向が見られた。2010 年前後に関しては、男性キャラクターの幅がより広がっているという変化がみられた。

一方、総語数の多いキャラクターは変化せずヒロインの評価がたかったという点がみられた。

これらについて過去の指摘などと比較すると、2000 年前後で評価される男性キャラクター像が広がっている点や 2010 年代から男性キャラクターの幅が広がった点は当てはまった。

また、見られた変化について先行研究とあわせて考えると、より深く女性の性役割を描いていくことで、女性キャラクターに広がり生まれ、それにあわせて男性キャラクターも広く受け入れられるようになったのではないかと考えた。

(指導教員 芳鐘冬樹)